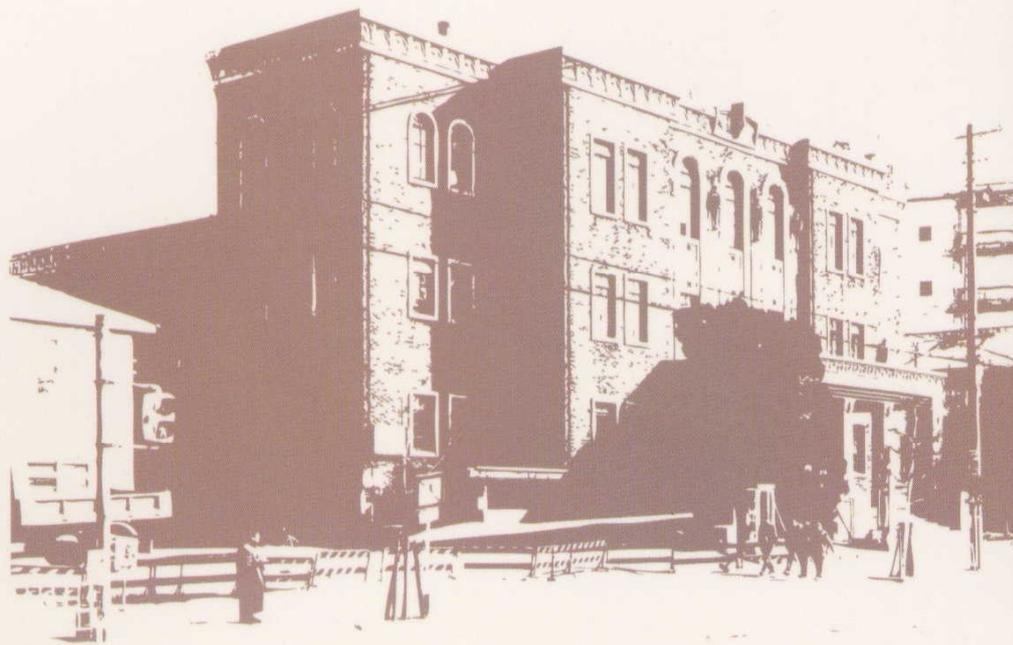


財団法人姫路市文化振興財団設立20周年記念

昭和20年代から40年代を中心に
姫路の戦後音楽史



Ⅲ 市民合唱の広がり

— 姫路市民合唱団・セレスチナ合唱団を中心に —

昭和20年代後半、小、中学校、高校で合唱の楽しみを知った若者たちが、大学で、職場で、地域で一人、二人と集まり、小さな合唱グループを作り、活動を始めた。「歌いたい」という熱い思いは、大きな輪となり、合唱団がいくつも誕生していく。
50年以上にわたって活動を続けている姫路市民合唱団、セレスチナ合唱団の方々に話を伺った。

初の本格的な一般合唱団の誕生。 姫路市民合唱団

藤本 姫路市民合唱団が昭和28年、セレスチナ合唱団が30年にそれぞれ発足され、50年以上も活動を続けておられるというのは、すば

らしいことですね。では、まず、姫路市民合唱団から発足の経緯をお聞かせください。

赤松 昭和28年に発足したのですが、私は、その前に、大学在学中の23年3月ごろ、地元
の芸術愛好家の有志で、「みかしほ文化同好会」という団体を作って活動していました

出席者

赤松 専もはらさん 姫路市民合唱団

坪田 一かずいちさん 同

中城 達藏たつぞうさん セレスチナ合唱団

今村 雅俊みやしゅんさん 同

編集委員

河西 公之 中野 英信

島田 敏宏 松葉 輝夫

塚本 利郎

司会

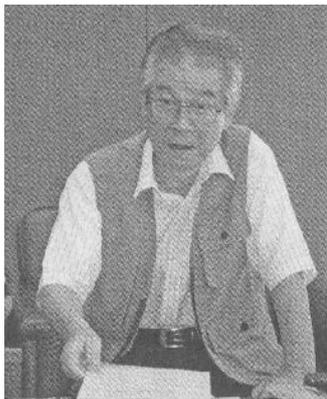
藤本 賢市



メサイアの夕べ(姫路市公会堂)

| プログラム | |
|--|---|
| I 管 弦 楽 | 指揮 吉村 一夫 |
| 1. 結婚行進曲 | メンデルスゾーン OP61の7 |
| 2. 交響曲第八番一楽章 | ベートーヴェン OP93 |
| 第一楽章 アレグロ ヴィヴァーチェ ムンダゴフ (加藤ハチロー) 第二楽章 アレグロ エタルツァンド (ヤムロ (曽根の)) 第三楽章 アジウ ヴィヴァーチェ (オモツトの墓まで) 第四楽章 アレグロ ヴィヴァーチェ (鐘く鐘く) | |
| II コロと管絃楽 | 指揮 中村 隆 指揮 吉村 一夫 |
| 1. コア・ユドタイ | ブルッフ |
| 2. セレナーダ・エスピガール | グラズナフ 作品20の2 |
| III 独唱・合唱と管絃楽 | ソプラノ 石田 純一 メゾソプラノ 姫路市民合唱団 テノール 石田 純一 バリトン 宮村 久美子 指揮 吉村 一夫 |
| 1. 歌劇「オム・フォイス」より | →グロリアーニ 第2回 |
| 2. 聖劇「救世主」より | |
| a. 第1幕 聖誕夜 | |
| b. 第2幕 アリア | |
| c. 第3幕 ベレレア | |

結成2ヶ月後に姫路交響楽団の第2回定期演奏会に出演した際のプログラム



坪田一一さん

するなど、活発に活動していました。メンバーは40人くらいだったでしょうか。

それで、28年4月に、市の社会教育課が呼びかけ、神戸大学におられた故・石田純一先生と、当時の福崎高等学校教諭、姫路短期大学非常勤講師をされていた宮村久美子先生のご指導で、姫路市民合唱団が発足すると聞き、同好会メンバー数人とともに参加させていただいたのです。職域合唱団からも多く参加されていました。当初は、野里小学校で練習していましたね。ほかに文化堂や姫路カトリック教会をお借りすることもありました※(2)。

松葉 瀬川写真館(現在の姫路観光なびポータルあたり)でも練習をされていませんでしたか。

赤松 ミカン箱かりんご箱だったかに腰かけ

(2)市民の間で合唱団を待望する声が高まり、市社会教育課は、昭和28年4月、姫路市民合唱団を結成、29日に結成式を行った。メンバーは神戸大学教養部姫路分校、姫路工業大学、同短大の音楽部員を中心に、16歳以上の市民から募集した。結成式では、テノール・木下保の独唱会も開かれた。6月21日には、結成後わずか2ヶ月で初ステージとして、姫路交響楽団演奏会に賛助出演、「ハレルヤ・コーラス」などを熱唱した。指揮は、音楽評論家・吉村一夫だった。

てね(笑)。あそこは「姫路博」※(3)で農機具展示場になっていた建物の中で、とても広くて。最初の頃は、裸電球の下、ピアノはなくオルガンで練習していました。

島田 あそこは、文化の拠点でしたね。8ミリ映画の同好会が上映会もやっていましたよ。

赤松 当時、職域合唱団はありましたが、一般の合唱団はなく、私たちのような小規模なサークルなどでしたから、初の本格的な一般合唱団ということで参加者は多く、100人を超えていました。みんな歌えることが楽しくて集まっていたのですが、石田純一先生のご指導のレベルがちょっと高すぎて：(笑)。団員が減ってしまいました。

それで、社会教育課の主催で、29年に「やさしい合唱教室」※(4)を別組織として立ち上げ、私が指導させてもらいました。自分たちでガリ版刷りで合唱曲集を作り、城南小学校の隣の白鷺中学校を会場に2年ほど続けました。それに参加してくれた人たちに市民合唱団にも入ってもらう形で、団員を増やし、危機を乗り越えたのです。その年の秋には、石田先生の指揮で定期演奏会が盛大に開けま

した。

坪田 姫路市民合唱団としては、明石市民合唱団と合同で昭和28年11月22日、明石明南高等学校講堂で、続いて28日に姫路市公会堂で、それぞれ演奏会を行いました。この28日の演奏会を第1回定期演奏会と位置づけております※(5)。明石と合同で演奏会を開けたのは、石田先生のご縁によるものです。プログラムによりますと、姫路が68名、明石が60名でした。演奏曲目は、ハイドンのオラトリオ「四季」から「秋」「冬」を歌いました。

ですから、今、赤松さんがお話しした29年秋の定期演奏会は、第2回目にあたり、プログラムによると、「やさしい合唱教室」「龍野コールアカデミー」などと演奏を行っており、出演者総数は約150名にものぼっています。戦後のあまり娯楽のない頃でしたから、合唱に多くの人々が集まったものと思います。

私自身は昭和32年、大学に入学して、その頃から参加しているのですが、それ以降も、ちょっと危機を迎えたことがありましたね。でも、残ったメンバーで励まし合って続けてきたんです。「継続は力なり」で、続かないと力もついていけません。今は、60人く

(3)昭和25年、産業の復興を目指して「姫路産業博覧会」が開催された。

(4)市社会教育課では、昭和29年4月から、楽譜が読めない人、気軽に合唱練習をしたい人に向けて、「やさしい合唱教室」を開催した。楽譜代1ヵ月30円だった。その後、31年11月には、「成人学校合唱教室」が白鷺中学校で開かれ、姫路市民合唱団理事長・和田成之が指導している。

(5)姫路、明石両市民合唱団合同演奏会の指揮者は石田純一、ピアノ伴奏・梅谷進で、ソプラノ・西尾文江、テノール・沢巖夫、バリトン・秋月直胤が客演し、盛大に開かれた。

らいで安定しています。

練習場所にはいろいろ苦勞しましたが、昭和47年に、ダメもとでカトリック教会にお願いに行ってみたらご快諾いただき、それ以来、ずっと使わせていただいています。ほかには、労音の「第九合唱団」も使われていますね。

ヴリーゲン神父の指導で育まれた セレスチナ合唱団

藤本 では続いて、セレスチナ合唱団の発足のきっかけをお聞かせください。

今村 中城さんたちが昭和30年に「コール・セレスチナ」として合唱団を立ち上げたのが前身ですよ。

中城 そうです。私は、小学校のとき中国・上海にいたのですが、その頃から放送児童合唱団で歌っていました。終戦直前、帰国して



中城達蔵さん

姫路に住むようになり、旧制姫路中学校から姫路西高等学校に進み、真下恭先生に合唱を教えていただきました。

その後、神戸商科大学に進学して、グリークラブがなかったものから、自分で作って初代会長を務めました。最初は10数人でしたが、29年に卒業するころは30数人に増えていましたね。また、在学中は神戸中央合唱団に所属したりもしました。

社会人になってからもOB会で歌ったりしていたのですが、地元、姫路で男女10数人で集まって歌おうということになり、これが「コール・セレスチナ」※(6)となったのです。30年頃のことでしたか。私の会社の事務所で練習していました。「セレスチナ」というのは、ラテン語で「天国」という意味なんです。ラテン語はこの言葉しか知らなくて、音の響きがきれいだったので名付けたんです。

31年に、知り合いから「淳心学院音楽教師のロベルト・ヴリーゲン神父さん※(7)なら、合唱を指導してくれるのではないか」と聞き、直接、お願いに行ったのです。快くお引受けくださって、「セレスチナ合唱団」として発足したわけです。

(6)昭和30年10月14日、「コール・セレスチナ」は神戸商科大学グリークラブリサイタルに賛助出演した。

また、32年3月には、姫路文化合同懇親会の主催で、「文化グループのつどい」が、ハトヤ3階で開かれている。中城達蔵が講師として、「コール・セレスチナ」の活動と合唱の味わい方を講演、合唱を鑑賞するという催しで、コンサートだけでなく、市民に気軽に音楽に触れてもらうための活動が広がっていった。

(7)ロベルト・ヴリーゲン(1928-2005)はベルギー生まれで、昭和28年来日。淳心学院の音楽教師となり、30年から38年まで、セレスチナ合唱団の指揮者として指導にあたった。その後、大阪教育大学、エリザベト音楽大学などで指導にあたり、大阪芸術大学では音楽学科長を務め、名誉教授となった。

「セレスチナ合唱団」は、31年4月13日、姫路市公会堂で初演奏会「市民に贈る文化の夕べ」を開催した。





セレスチナ合唱団の発表会

藤本 そうすると、中城さんたちの方からヴリーゲンさんにご依頼されて、合唱団として立ち上がったわけですね。

中城 きっかけはそうですが、やはり、ヴリーゲンさんがいてくださったからこそ、今まで歩んでこられたのだと思います。

今村 私が入団した昭和33年頃には、メンバーはすでに30数人に増えていましたね。

藤本 ヴリーゲンさんは昭和38年までご指導され、その後を今村さんが引き継いでいらっしやるんですね。いろいろご苦労もあったかと思いますが。

今村 多々ありましたね。宗教音楽を中心にやっていますが、日本人にはあまりなじみがないし、ほとんど原語のラテン語で歌うので大変です。幸い、メンバーの中に数人、神父がいますので、発音や意味などを教えてもらいながらやっています。でも、信仰は関係なくて、カトリックの信者でないメンバーが多いです。なじみがないということで、団員の確保や演奏会での観客動員などにも苦労しています。一時期、団員がかなり減ったこともありましたが、それを乗り越えて、今は約30人で安定してやっております。

練習会場として当初は、淳心学院の音楽室を使っていました。その後、カトリック教会の信徒会館から建て直された教会の2階ホールを使うようになりました。現在、淳心学院の講堂（心城館）で行っています。また、当時は演奏会場も少なかったですね。姫路市公会堂や旧商工会議所ホールで演奏会をしていました。労働会館でもやりました。

難曲や委託作品など、 幅広く取り組む

藤本 取り上げる曲は、どのようなものが多

いのですか。セレスチナ合唱団は、当初から宗教音楽だけを取り上げていらっしやったんですか。

中城 いえ、日本の合唱曲もよく歌いましたよ。私が、神戸中央合唱団で歌った曲を持ってきたりしました。

今村 だんだん、宗教曲にウエートが置かれるようになりましたね。現在は、宗教曲を中心に歌っています。当初は、楽譜や音源がない中で、曲を選ぶのが大変でした。

中城 市民合唱団の方もおっしゃっていたように、自分たちで、ガリ版で手作りしましたね。五線譜も書いて。お手本にしていた楽譜の間違いを見つけたりして（笑）。

今村 今では、合唱音楽の楽譜専門店もありますので、そこに出向いたり、カタログなど



今村雅俊さん



姫路管弦楽団とセレスチナ合唱団の共演
「メサイアのタベ」

を参考に、時代にこだわらずセレスチナのレベルに合いそうな曲を選んでいきます。今も、音源がない曲を取り上げたりもしています。

藤本 埋もれた曲を取り上げたりされるんですね。

今村 ヴリーゲン先生は、中世ルネッサンス時代の音楽だけではなく、もう少し幅広く、バロックから古典派の作曲家の作品なども取り上げていらっしやいました。また、当時としては大変珍しかったと思いますが、カール・

セレスチナ合唱団で調べたところ、この画像は姫路管弦楽団とセレスチナ合唱団の共演ですが「メサイアのタベ」ではありません。（メサイアのタベの指揮者は名倉種一郎氏ですが、この画像はロベルト・ヴリーゲン氏です。29ページの画像と比べると。会場の様子も出演者の顔触れも違っています。）

オルフ作曲の「カルミナ・ブラーナ」も取り上げました。これが難曲でね。もちろん全曲ではないんですが、抜粋で何曲か歌ったことがあります。姫路管弦楽団※(8)と共演しました。今、残っている当時からメンバーは、今でも、あの旋律が耳によみがえるとよく話しています。

坪田 市民合唱団では、宗教曲は2、3割で、後は、日本人作曲家のもので。毎年、新しい曲を必ず取り上げるようにしています。50周年記念で作っていただいた組曲「五つの風景」(作詞・まじみちお、作曲・山岸徹)は、その後の定期演奏会で、その中の1曲は必ず歌うようにしています。実は、平成21年に55周年となるので、同じ作曲家の山岸徹さんに委嘱作品※(9)をお願いし、昨年(平成20年)12月の創立55周年記念定期演奏会で、混声合唱曲集「あさ」を初演しました。

昭和57年から、セレスチナ、月曜会※(10)との三合唱団で、交流とレベル向上を目的に「CGSジョイントコンサート」を2年に1回開いているのですが、その番外編的なものとして、平成元年に、「交響詩ひめじ」(作詞・川口汐子、作曲・池辺晋一郎)の初演※(11)

を行ったこともとてもうれしかったですね。池辺先生ご自身で指揮をされて、姫路市児童合唱団、姫路交響楽団との共演でした。

平成12年12月に、姫路文連(姫路地方文化団体連合協議会)の姫路文化賞※(12)をいただき、それからは上り調子です(笑)。メンバーも定着してがんばっています。

多彩に展開されている合唱活動

坪田 最近、ちょっと気になっているのは、中学校に合唱部は多いけど、高等学校では少なくなっているようだという事です。

塚本 吹奏楽は多いんですけどね。

中野 合唱の指導者も少なくなってきましたね。

坪田 職域合唱団※(13)(14)は、姫路地区では昭和55年頃にほぼ消滅し、現在は皆無だと思っています。また、大学の合唱団も少なくなっています。ただ、播州合唱連盟※(15)の加盟団体数は増えているんです。一般団体、それも20人前後の小さな団体が多いんですが。つまり、「歌いたい」という方は多いということでしょうね。

(8)一時、活動を中断していた姫路交響楽団メンバーに、ロベルト・ヴリーゲンが声をかけ、昭和32年頃、姫路管弦楽団として再発足した。

(9)混声合唱曲集「あさ」は、作曲家・山岸徹が今まで「朝」をテーマにして作った4曲を組み合わせ、編曲したもので、谷川俊太郎と、立原道造の詩を使っている。

(10)女声合唱団「月曜会」は、昭和40年設立。

(11)「交響詩ひめじ」は、姫路市制100周年記念事業の一つとして制作された。委員会を組織して、播磨風土記、万葉集、姫路の歴史などを資料として構成が協議され、「第1章 姫路のあけぼの」「第2章 城一千姫によせて」「第3章 こともの祭」「第4章 栄光の世紀へ」として完成した。市民の誰もが、いつでも、どこでも演奏できるように、歌い続けられるために、また、混声、女声、吹奏楽、管弦楽などどのような編成でも演奏できるように、部分演奏も可能な合唱組曲として作られている。以後、毎年2月にコンクール、3月に演奏会が開かれ、歌い継がれている。

(12)姫路文連(姫路地方文化団体連合協議会)は、昭和39年、文芸、演劇など有志の個人、文化団体によって結成された。姫路文化賞は、地域の文化活動に業績をあげた個人、団体を顕彰するために、38年、当時の姫路文化団体懇談会(文団懇)が創設したもので、姫路文連によって引き継がれている。セレスチナ合唱団も昭和63年に受賞している。

